

手島活性へ生徒ら花育む

丸亀養護学校 京大生と交流

瀬戸内海に浮かぶ手島（丸亀市）の活性化を進め、交流ネットワークのメンバー4人が6日、同市にある京都大のサークル「農業」の県立香川丸亀養護学校を



生徒（左）とともにキンセンカの世話をする
学生（丸亀市の県立香川丸亀養護学校で）

訪れ、花の栽培に取り組み高等部園芸班の生徒と交流した。同ネットの学生たちは4月末、生徒たちが丹精した花の苗を手島の港周辺に植え付け、島のにぎわいづくりに一役買う考えだ。

学生たちは、農作業を通じて生産者や地域とのふれあいを深める活動を全国で行っている。丸亀港沖約20キロの手島も、そのフィールドの一つだ。

同市の尾崎美恵さん(64)が代表を務めるNPO「四国夢中人」が昨年、手島でスタートさせたプロジェクトに参加。島の人たちと力を合わせ、古刹の裏山で荒れた竹林から約400本を切り出したり、特産のトウガラシ「本鷹」の苗の植え付けを手伝ったりしてきた。

こうした活動を知った養護学校が「生徒の活動を社会に役立てたい」と、キン

センカなど春に咲く花の苗約2000株の提供を申し出た。

顔合わせを兼ねて訪問したこの日、学生たちは、校内のビニールハウスで園芸班の生徒がキンセンカに肥料を施す作業を手伝った。農学部3年池田菜史さん(22)は「大切に育ててくれた花。きれいに咲かせ、島がにぎやかになるきっかけにしたい」と話した。